

## 優秀賞

「サバーイ」と「マイペンライ」

北杜市立甲陵中学校 3年  
富岡 水

今年の夏、私はタイ北部チェンライで山岳少数民族を支援する NGO のボランティアに参加した。二週間の滞在で私の心に強く残った言葉がある。「サバーイ（気楽に）」と「マイペンライ（問題ない）」だ。タイ人はこの言葉をよく使うので、最初は何だか軽い言葉に聞こえていた。しかし私は何度もこの言葉に助けられた。そして一緒に生活しているうちに、これは彼らの大らかな性格と自然と共にある暮らしから生まれた考え方なのだと思うようになった。

山岳少数民族は様々な問題を抱えている。貧困、無国籍、初等教育の不足等だ。最初は、彼らは貧しくて日々の生活に困っている人たちだと思っていた。だから、私はずっと何をしてあげればいいのか、何ができるかを考えていた。しかし行ってみると様子が違った。

私の主な活動はアカ族、ミエン族、ラフ族、カレン族の子どもが通う小学校での日本語の授業だった。そこで出会った子どもはみんな明るくてとてもフレンドリーだった。私の名前をすぐに覚えると笑顔で名前を呼び、遊びを教えてくれたり、仲間に入れてくれたり、面白そうなものを見せてくれる。また、私がうまくタイ語を話せないでいると「サバーイ」と言ってくれるし、タイ人のスタッフは上手くできなくても「マイペンライ」と声をかけてくれる。お互いにできることを伝え合ってコミュニケーションを取っている。私たちが一方的に与えるだけでなく、お互いに得るものがあり、彼らから学んだことはたくさんあった。子どもたちからは貧しさなんて感じなかった。もちろんノートや文房具など足りないものはたくさんある。だけど子どもたちと過ごすうちに、何か自分の考え方が間違っているように感じていた。

もう一つ、ラフ族の村に行ったときのこと。村にあるたった一つの小さなソーラー発電を村人たちが順番に使っていた。ほとんどの家に電気が充分行き届いていないが、村人たちはあまり困っておらず、暗くなればローソクを使って、早めに寝る生活を送っていた。村で作っている農作物は自分たちで食べるものとして栽培しているし、竹を生活のあらゆる場所に使っていて、調理器具やお皿、コップ等、何でも作ってしまう。ホストをしてくれたヤカーさんは、お金が無いからだと言って笑っていたが、何でも自分たちで作る姿にたくましさを感じた。そして「サバーイ」、「マイペンライ」と言って、いまの生活を楽しんでいる姿を見ると、何かしてあげようと思っていた自分がとても恥ずかしく思えた。実際に現地へ行ったことで、本やネットでは得られなかった「あるものを工夫する生活」や、そんな生活と共にある「サバーイ」と「マイペンライ」を教わった。相手の習慣や考え方をまず知ることが大事で、自分にとって良いものが相手にとって良いものとは限らない。彼らにとって良いものは何かを考えることがより良い未来の第一歩だと思った。